２０２４年（令和６年）　１月３１日　水曜日

デーリー東北　１０面　掲載

第78回国スポ スケート・アイスホッケー 苫小牧

木村（スーパースポーツゼビオ）22位 成年男子

フィギュア

（nepiaアイスアリーナ）

▽成年男子 ①友野一希（大阪・上野芝ク）252・63点（ショートプログラム68・49、フリー184・14）②吉岡（兵庫・法大）226・61点（74・26、152・35）③織田（大阪・大阪スケート倶楽部）226・25点（78・09、148・16）⑫木村真人（スーパースポーツゼビオ）127・21点（ショートプログラム45・65、フリー81・56）

▽同都道府県成績（順位合計）①大阪（友野、織田）4点②岡山（三宅、杉山）11点③埼玉（大）69・37点③佳吉（東京・オリエンタルバイオ・明大）65・75点⑫藤田海羽（慶大）34・99点㉙安保咲野（八戸学院大）31・73点（フリー出場は24位まで）

▽成年女子ショートプログラム ①坂本花織（兵庫・シスメックス）79・66点②松生（愛知・中京大）16点

藤田（八戸高―慶大）27位 安保（八学大）29位

○…ショートプログラムに臨んだフィギュア成年女子の青森県勢は、藤田海羽（八戸高―慶大）が27位、安保咲野（八学大）が29位でいずれもフリーに進めなかった。国スポ初出場の安保は「今まで失敗してないスピンをミスして、悔しい」と視線を落とした。

安保が反省したのは脚換えのコンビネーションスピン。回転数を意識し過ぎて、脚を上げるタイミングが遅れた。ただ、全体を通してジャンプの失敗は少なく、「緊張したが、いい経験になった」と振り返った。

2022年大会以来の出場となった藤田は2年前より10点近くアップ。技の難易度や成功率を上げたほか、表現力で成長を示した。

アイスショーに出演するプロのスケーターを目指す大学3年生は「感動を届けられる演技ができるよう、もっと表現を磨きたい」とさらなる成長を誓った。

31・73点で29位となった安保咲野（八学大）

デーリー東北新聞社提供